

国際力動的心理学療法学会

第24回年次大会

大会テーマ

レジリエンス Resilience



日時 2019年3月1日(金) - 3日(日)

会場

大会1・2日目 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」(JR東海道線 東静岡駅 徒歩3分)

大会3日目 CSA 貸会議室 (レイアップ御幸町ビル) (JR東海道新幹線・東海道線 静岡駅 徒歩3分)

大会会長 嶋田 一樹 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)

大会副会長 武野 顕吾 (ボールパークコーポレーション 代表)

後援

静岡県立病院機構 静岡県立こども病院

静岡県臨床心理士会・静岡県精神保健福祉士協会

静岡県看護協会・静岡県教育委員会・静岡市・静岡市教育委員会

○表紙のことは(歌川広重 東海道五拾三次 吉原 左富士)

当時、東海道を西に進むと、富士山は常に右手に見えておりました。ところが、吉原(静岡県富士市)付近では高潮の被害を避けるために道が内陸側に大きく湾曲していたため、富士山もここでは左側に見えたそうです。そんな“左富士”の名所として話題になっていた場所を、広重は浮世絵に残しています。“富士山は東海道の右に見えるもの”という常識に囚われることなく、新たな世界に関心を持ち、楽しんでみる、というレジリエンスある姿勢にも繋がるのではないでしょうか。

第24回年次大会 大会会長挨拶



IADP 第24回年次大会のテーマは『レジリエンス(resilience)』です。レジリエンスは、単に心の機能を回復するプロセスや結果だけではなく、その語源に、「跳ね起きる」という意味を包含し、“危機”に直面してもなお、心の主体性(自我の自律性)を損なわず、葛藤を回避せずに、現実に向き合おうとする弾力ある心の在り様を示す概念です。

我々がクライアントの、子どもたちの、病の床にある患者の、児童生徒の、レジリエンスを信頼して声をかける時、初めてお互いの心が揺れ、変化への可能性が開かれていきます。反対に、「(クライアントを)傷つけないように」という名目のもと、専門家自身が、自分が傷つくことを恐れ、揺れることを、揺らすことを回避してしまうと、変化へのルートが閉ざされてしまいます。ともに揺れることになじみ、揺れることで生じるエネルギー(熱)を利用すること、レジリエンスを活用していくことが、発達、成長、変化への第一歩です。

今大会は、世界文化遺産、霊峰富士のふもと、静岡での開催となります。富士山は、江戸時代中期(宝永7年)の噴火を最後に、300年近く噴火はないものの、一見、穏やかな母のような、あるいは、雄々しい父のような姿の内部に、膨大なエネルギーを内包しています。私の地元は、宝永の噴火によって、火山礫・火山灰が3メートル以上も積り、一旦は村は全滅したものの、祖先たちの努力の末に、復興を果たした地域です(未だに稲作はできません)。その際、時の郡代伊那半左衛門忠順公は、自らの命を賭して駿府紺屋町の代官所にあっ

た貯蔵米、一万三千石を無許可で運び出し、貧窮の村々に配布して村民の命を救いました。これらは、私が、幼少期から、繰り返し祖父母から聞かされ、英雄を祀った神社を訪れるたびに、肌で感じてきた歴史です。

富士山同様、我々も、心の奥底に多くのエネルギーを蓄え、活用しながら、日々の生活を送っています。火山噴火のような破壊的なエネルギー、愛情を求めるエネルギー、様々なエネルギーを抱えているにも関わらず、何らかの理由で、それが堰き止められ、表現に、人との関係に紡ぐことが難しくなった人々に我々は出会います。我々が、“目の前のクライアントにはエネルギーがある”と信じれば、できることはたくさんあります。レジリエンスは、目の前の危機や、葛藤から逃げずに戦い続けた結果、積み上げ、獲得していくものです。今大会を、本学会の新たな一歩とすべく、参加者の皆様とともに、3日間、互いのエネルギーをぶつけ合い、熱い時間を共有したいと思います。皆様にお会いできることを、心より楽しみにしております。Let's get rocked!

第24回年次大会 大会会長
嶋田 一樹(静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)

大会会長プロフィール

静岡県駿東郡小山町出身。心理療法家(資格:臨床心理士)

【専門】

児童思春期を対象とした心理療法/プレイセラピー リエゾン心理
PAS心理教育研究所 自我機能鍛錬プログラム(SET)トレーナー

【略歴】

静岡県知的障害者厚生相談所 心理判定員
静岡県藤枝市教育委員会および児童課 心理判定員
現、静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 心理療法室 主任

ゲスト・ファカルティ



ラルフ・モラ, Ph.D., MSS, CAIA

アデルファイ大学において臨床心理学の博士号を取得。アメリカ陸軍戦略大学およびテキサスA&M 大学において卒業研究を完成させた。長年、兵士の PTSD 治療、戦地に向かう軍人・兵士の子どもたちへの心理的対応、子どもの PTSD 治療に精力的に取り組んでいる。2014 年にアメリカ国防総省での仕事を引退し、現在はメリーランド大学の非常勤教授を務め、また山口県岩国市にて個人開業を行う。最近の論文には、統合された早期児童発達、心的外傷後ストレス障害、アディクション、統合された保健行動学に関するものがある。



牛島 定信, M.D.

九州大学医学部卒業。ロンドン大学精神医学研究所留学。福岡大学医学部教授、東京慈恵会医科大学教授、東京女子大学教授、日本精神分析学会会長、日本森田療法学会理事長、日本サイコセラピー学会理事長、日本児童青年精神医学会理事長を歴任。人格障害、青年期の精神病理の解明および力動的治療法の実践、研究をリードしてきた、日本を代表する精神分析医であり、精神分析的な精神医学に最も貢献してこられたお一人である。

主要著書

『思春期の対象関係論』金剛出版

『境界例の臨床』金剛出版

『対象関係論的精神療法』金剛出版

『心の健康を求めて 現代家族の病理』慶應義塾大学出版会

『人格の病理と精神療法 精神分析、森田療法、そして精神医学』金剛出版

翻訳書、啓蒙書、他多数。

後援団体

- ・ 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院
- ・ 静岡県臨床心理士会
- ・ 静岡県精神保健福祉士協会
- ・ 静岡県看護協会
- ・ 静岡県教育委員会
- ・ 静岡市
- ・ 静岡市教育委員会

2019年3月1日(金):大会1日目

10:30 10:45	開会式
10:45 11:45	大会会長講演 「発達力と身体性ー“死”に抗い“生”を生き抜くためのレジリエンスー」 講演：嶋田 一樹（静岡県立病院機構 静岡県立こども病院） 司会：中村 有希（PAS 心理教育研究所 クリニカルディレクター／東京医科大学 非常勤講師）
12:00 13:00	大会基調講演 「子どものレジリエンスを育てるー包括モデル（富士山モデル）による実践もふまえてー」 講演：小林 朋子（静岡大学教育学部 教授） 司会：嶋田 一樹（静岡県立病院機構 静岡県立こども病院）
13:00 14:30	昼食
14:30 16:10	臨床研究発表 ※ 研究発表の規定については、8,9 ページをご参照ください。
16:30 18:30	シンポジウム「危機とレジリエンス」 司会：大橋 良枝（聖学院大学 教授） シンポジスト 「統合失調症を中心とする精神病患者とレジリエンスー病院臨床の立場からー」 能 幸夫（PAS 心理教育研究所／湘南病院相談室） 「大震災PTSD 心理療法の立場から」 橋本 和典（立教大学現代心理学部／PAS 心理教育研究所・同福島トラウマ心理療法センター） 「セルフケアとレジリエンスー精神看護CNSの個人・組織への介入ー」 宇佐美 しおり（熊本大学大学院生命科学研究部 教授） 「困難の中にある人々 人道援助活動の経験から」 加藤 寛幸（特定非営利活動法人国境なき医師団日本 会長）

2019年3月2日(土):大会2日目

10:00 11:00	市民公開プログラム「心の中に富士山を作ろう!」① 教育講演「しなやかにたくましくーPAS（パス）セルフケアセラピーー」 講演：宇佐美 しおり（熊本大学大学院生命科学研究部 教授） 司会：石川 与志也（ルーテル学院大学 専任講師／PAS 心理教育研究所）
11:00 12:00	昼食

大会スケジュール

12:00-	市民公開プログラム「心の中に富士山を作ろう！」② ※ 市民公開プログラム②の詳細は、12 ページをご参照ください。
12:00	実践& 講義
13:20	
13:40	座談会 「親や指導者と子どもを繋ぐもの、隔てるもの」 座長（話題提供）：武野 顕吾（ボールパークコーポレーション 代表）
14:30	
14:45	エドワード・ピニー記念講演 「最近の青年期における人格発達をめぐってー精神医学的病態の変容を考えるー」 講演：牛島 定信（ホヅミひもろぎクリニック 院長） 司会：嶋田 一樹（静岡県立病院機構 静岡県立こども病院）
15:45	
16:00	訓練ワークショップ ※ ワークショップの詳細は 6, 7 ページをご参照ください。
19:00	
19:30	懇親会 会場：GRILL 炙之介(あぶりのすけ) (〒420-0033 静岡県静岡市葵区昭和町 1-8 Tel.054-273-8844)
21:30	

2019年3月3日（日）：大会3日目

9:45	事例スーパーヴィジョン 講師 ① 牛島 定信（ホヅミひもろぎクリニック 院長） ② ラルフ・モラ（個人開業 / メリーランド大学） ③ 宇佐美 しおり（熊本大学大学院生命科学研究部 教授） ④ 能 幸夫（PAS 心理教育研究所 / 湘南病院相談室） ⑤ 橋本 和典（立教大学現代心理学部 / PAS 心理教育研究所・同福島トラウマ心理療法センター） ※ 事例スーパーヴィジョンの規定については、8, 9 ページをご参照ください。
11:45	
11:45	昼食 / 理事会
13:00	
13:00	総会 学会員はご参加ください
14:00	
14:15	全体ケースセミナー コンダクター：小谷 英文（IADP 理事長 / PAS 心理教育研究所 理事長）
16:15	
16:20	閉会式
16:30	

プロの心を鍛える心理療法入門

トレーナー 武野 顕吾 (ボールパークコーポレーション)

例えば、”試合前に緊張する”というスポーツ選手に対して、我々臨床家はどのようなアプローチができるだろうか？選手が世界一を目指して戦う時、彼らは自分の内面の緊張を受け入れ、また刻々と変わる外的状況にも主体的に反応し、そして時に自分のベストを越えたパフォーマンスを出すことができる。つまり自身の内と外の双方に対してレジリエントにすることが望まれる。このように自分の限界を超えようとする人たちの心を鍛え、支援するための心理療法を学ぶのが本ワークショップの目的である。この心理療法の対象者はスポーツ選手のみならず、各界で自分の能力をさらに向上させようとする”プロ”と呼ばれる方々全般に対して適応可能なものである。本ワークショップでは、シナリオロールプレイやディスカッションなどを通じ、参加者ご自身がそこで感じた体験もベースにして学んでいく。

PTSD 予防と心理療法

トレーナー 橋本 和典 (立教大学現代心理学部/PAS 心理教育研究所・同福島トラウマ心理療法センター)

PTSD の予防には、二つの砦がある。第一の砦は、死の脅威ストレスをトラウマにしないこと。その砦が突破された場合の第二の砦は、抱えたトラウマ反応を障害にしないことである。本ワークショップは、地震、大雨の甚大災害が続き、今後もメガ災害が確実に予想される日本において、さらには、日常臨床の中での避けがたい事件や事故対応において、PTSD をより積極的な砦対応を可能にする予防教育と力動的支持的心理療法の基本技法のイメージをつかむことを目的とする。実際のトラウマ事例についての全員での分析及び対応可能性の確認(SVを含む)を方法とする事例ワークショップ形式で行う。PTSD、トラウマ、災害対応に関心のある学会員や参加者、大学院生にぜひ積極的に参加してほしい。

※参加者の中で、2名の事例提出者を募集します。希望の方は、200字(匿名性を保持したもの)の要約も含めて提出してください。

子どもの中の愛する能力としてのレジリエンス

トレーナー ラルフ・モラ (個人開業/メリーランド大学)

このワークショップで主にお話しするのは、子どもの精神的発達の基礎となる自己決定と自己譲渡(self-surrender)についてです。自己決定への意欲により子どもはユニークでいられる一方、自己譲渡は子どもが社会に参加できるようにします。両方とも必要なことです。このどちらか一方しか発達しないと、精神的に不健康な子どもになったり、不快な社会になったりします(Angyal, 1951)。自己決定は自発性、自己主張、自由や支配への努力などに表れます。自己譲渡は子どもが自分より大きいと考えるものの一部になろうとする試みに表れます。実際、子どもは、自分の身近な世界を統一する者になろうと努力し、また自分の存在する上位世界の一員になろうと努力します。この両方がゲシュタルトを形作り、子どもは真実の愛を経験し成長できるようになります。この観点からみると、子どものレジリエンスは、子どもが生物学的にまた自分の家庭内や環境において、自己決定と自己譲渡の両方を発達させるよう促す能力に反映されます。

※ このワークショップには当日通訳が付きま

事例研究法

トレーナー 小谷 英文 (IADP 理事長 / PAS 心理教育研究所)

事例研究は学術的知見をもたらすのみならず臨床成果を高めるものであり、困難患者や新奇な事例に関しては常に臨床実践に並行してなされるべきものである。また心理療法、セルフケアセラピー等の臨床介入、カウンセリングを本格的に学ぼうとするなら、技法の習得は事例研究によってより確かなものとなる。事例研究の豊かな学術的展開と臨床実践の質を担保し高めるために、伝統的なアプローチから現代科学手法の新しいアプローチまで、目的に応じた組み立て方を学び自験例による演習によって実力アップを図ろう。

＊ワークショップ内容：Ⅰ. 小講義：事例研究4アプローチ Ⅱ. 事例研究演習：自験例の事例研究展開

＊進め方：小講義を出発点として、参加者の自験例を事例研究デザインに乗せ、テーマ、研究手順を構成、期待される成果を検討する。

＊参加条件：関心を持つ事例を持参すること。文書にまとめる必要なし。

【定員】 20名

応答構成入門—共感的理解の体験的習熟のために—

トレーナー 能 幸夫 (PAS 心理教育研究所 / 湘南病院相談室)

みなさんは、“共感的理解”をどのように理解していますか。カウンセリング、心理療法といった心理面接において、“共感的理解”の促進的な介入としての意味を提唱したロジャーズは実際にそれをどのようなものと捉えたのでしょうか。

クライアントの発言に対する面接者の応答を組み立てていく応答構成は、臨床家の「考えと認知」(P)、「気持ちや感情」(E)、「行動」(A) と、クライアントの「考えと認知」(P)、「気持ちや感情」(E)、「行動」(A) を識別し、その上で、自分の捉えたクライアントの体験についての理解をクライアントに伝えていくことを習練していきます。その営みこそが共感的理解の基礎となります。応答構成を通じて、この共感的理解の本質を体験的に理解していきましょう。

IADP 応答構成のリピーターも歓迎します。同じ場面でも自分の臨床の積み重ねによって、新たな応答が構成されていきます。それはきっと面白い体験になりますよ。

【定員】 6名以内

バーンアウト予防のための Story Making Group (SMG) 体験ワークショップ

トレーナー 花井 俊紀 (PAS 心理教育研究所)

心理療法家、看護師、医師、福祉士、児相職員、DV カウンセラーなど、臨床家・クライシスワーカーが人の生き死や身の安全の危機に携わる上で、大小問わずミスや失敗は避けては通れない。命や安全を守れなかったことの自責や後悔は、放っておけばうつやバーンアウトを引き起こす。安全な場で、避けずに向かい合い、荷降ろしすることが必要である。

本ワークショップの目的は、PTSD 予防のための小集団精神療法として開発された「Story Making Group」を体験し、日々の臨床にある痛みや安全に向き合い、レジリエンスを回復・維持させることである。SMG ではフィクションの物語作りを通して自分に向かい合うため、守秘義務など話すことの制限が多い方こそ、安全に活用していただけるワークショップとなっている。

SMG の詳細は右を参照：小谷英文・橋本麻耶・花井俊紀・西浦和樹 (2015) ストーリー・メイキング・グループの力動的治療機序—東日本大震災臨床事例から— 集団精神療法 31(1), 48-57.

【定員】 10名以内

演題募集

演題募集プログラム

IADP 第 24 回年次大会では、以下のプログラムに関して演題を募集します。

- | | | |
|----------------|--------------------|-------------|
| 1. 臨床研究発表 | 2018 年 3 月 1 日 (金) | 14:30-16:10 |
| 2. 事例スーパーヴィジョン | 2018 年 3 月 3 日 (日) | 9:45-11:45 |

1. 臨床研究発表

「事例報告」「事例研究」「リサーチ」の3部門に分けて、以下の臨床領域およびテーマの臨床研究発表(口頭発表)を募集致します。なお、申込受理の可否については大会査読委員会で決定いたします。

※「事例報告」「事例研究」「リサーチ」3部門の詳細については大会ウェブサイト掲載の研究発表要綱を参照ください。

定員 18 名 (定員になり次第、締め切りとさせていただきます。)

時間 1 発表 30 分 (20 分発表、10 分ディスカッション)

募集臨床領域

- 1) アスリート・スポーツ
- 2) 開業・医療(病院・クリニック)
- 3) 教育(学校・教育相談・学生相談)
- 4) 産業・エグゼクティブ
- 5) 司法・矯正
- 6) 精神看護

募集テーマ

① 処方・治療法

- ・心理療法/精神療法
- ・集団精神療法
- ・プレイセラピー/活動療法
- ・ガイダンス/カウンセリング
- ・コンサルテーション/コーチング/組織開発
- ・危機介入
- ・メガ災害対応臨床
- ・リエゾン精神看護/ターミナルケア/緩和ケア/喪失(モーニングワーク) /セルフケアプログラム/セルフケアセラピー

② 発達と病理

- ・幼児期/学童期/思春期/青年期/成人期/老年期など
- ・抑うつ/神経症/パーソナリティ障害/統合失調症/トラウマ/ PTSD /発達障害様問題行動など発達と成長

③ 技法・技法開発

- ・心理療法技法/力動的介入技法
- ・心理教育/プレイセラピー技法開発/アサーショントレーニングなど

2. 事例スーパーヴィジョン

IADP の事例スーパーヴィジョンでは、国内外の第 1 線のスーパーヴァイザーの超えた (super) 視野 (vision) を得て事例を新たに理解し、次の面接でどのようにクライアント/患者に働きかけるのか、次の一手を明確にすることができます。日々の臨床で事例対応に困っている方、事例理解を深めたい方、事例展開に煮詰まっている方、どうぞ IADP のスーパーヴィジョンを活用してください。

以下のスーパーヴァイザーのキーワードを参考に、希望スーパーヴァイザーをお選びください。各先生 2 事例ずつ募集します。発表は日本語もしくは英語のいずれかとなります。海外のセラピストからスーパーヴィジョンを受けたい場合には、英語での発表を歓迎します。発表要旨は英語で作成していただきますので、ご留意ください。英語での発表要旨作成に関してご心配な点がございましたら、大会事務局までご相談ください。

スーパーヴァイザー

- ① 牛島 定信先生 (ホヅミひろぎクリニック) : (力動的精神医学、精神療法、パーソナリティ障害、うつ病など) (2 事例)
- ② ラルフ・モラ先生 (個人開業 / メリーランド大学) : (力動的的心理療法、子ども・家族、PTSD など) (2 事例)
- ③ 宇佐美 しおり先生 (熊本大学大学院生命科学研究部) : (セルフケアセラピー、リエゾン・精神科精神看護など) (2 事例)
- ④ 能 幸夫先生 (PAS 心理教育研究所/湘南病院相談室) : (力動的的心理療法、集団精神療法、精神病、病院臨床など) (2 事例)
- ⑤ 橋本 和典先生 (立教大学 / PAS 心理教育研究所) : (力動的的心理療法、集団精神療法、青年期、PTSD など) (2 事例)

申込手続き

演題発表申込手続き

発表を希望される方は、「演題登録用紙」に必要事項を記入して、大会事務局までメールもしくはファックスにてお送りください。演題登録用紙は、大会ウェブサイト (<http://www.24annual.iadp.info>) からワードファイルでダウンロードすることができます。

後日、大会事務局より「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」をお送りします。「研究発表要項」は、大会ウェブサイトからご覧いただけます。なお、各発表は「4) 発表要旨受理の審査」によって受理された順に定員になり次第締切となります。お早めに申込ください。

発表までのスケジュール

- 1) 演題登録 : 演題登録用紙の提出受付期間 2018 年 7 月 19 日 (木) ~ 11 月 1 日 (木)
- 2) 「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」の受取
- 3) 発表要旨の作成・提出 締切 : 2018 年 11 月 8 日 (木)
- 4) 発表要旨受理の審査
- 5) 審査結果の通知 提出後約 2 週間
- 6) 最終発表要旨の提出 2018 年 11 月 30 日 (金)
- 7) 当日発表

注記

- ・全ての発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。
- ・研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金名や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」としてご記入ください。
- ・企業・法人組織等からの補助や援助 (金額は問いません) を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください (利益相反の公開義務)。なお、公的な研究助成金等 (科研費等) は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。
- ・発表要旨をご提出される前に、共同発表者と内容の確認を行ってください。

演題登録用紙送り先

国際力動的心理療法学会 第 24 回年次大会事務局
E-mail: office24@24annual.iadp.info
FAX: 054-247-6259 (代表)

第 24 回年次大会 大会組織

大会会長 ----- 嶋田 一樹 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)

大会副会長--- 武野 顕吾 (ポールパークコーポレーション 代表)

大会組織委員会

委員長 ----- 嶋田 一樹 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)

委員 ----- 坂本 喜三郎 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 院長)

山崎 透 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 ころの診療部 部長/ころの診療科センター長)

小林 朋子 (静岡大学教育学部 教授)

学術プログラム委員会

委員長 ----- 中村 有希 (PAS 心理教育研究所 クリニカルディレクター/東京医科大学 非常勤講師)

委員 ----- 大橋 良枝 (聖学院大学 教授)

橋本 和典 (PAS 心理教育研究所 理事)

兼松 泉 (磐田市立総合病院)

大会事務局:

静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 心理療法室

大会事務局長 - 深澤 美里 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)

広報・抄録 ---- 天野 敏秀 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)
花井 俊紀 (PAS 心理教育研究所)

受付 ----- 土屋 藍 (静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)

会計 ----- 長谷川 夏子(静岡県立病院機構 静岡県立こども病院)

会場 ----- 山本 奈苗 (医療法人社団 リラ 溝口病院)

平林 千鶴 (焼津市立総合病院)

薩川 奈々 (医療法人社団 リラ 溝口病院)

根本 厚子 (静岡市スクールカウンセラー)

森 憲世 (静岡県東部児童相談所)

渉外 ----- 吉田 愛 (PAS 心理教育研究所)

菅原 千代子 (PAS 心理教育研究所/横浜市スクール
カウンセラー)

宿泊・懇親会 - 石渡 恵 (あい心理相談室/さざ波てんかん神経クリ
ニック)

通訳・翻訳 ---- 髭 香代子 (PAS 心理教育研究所)

大会事務局: 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 心理療法室

〒420-8660 静岡県静岡市葵区漆山 860

メールアドレス: office24@24annual.iadp.info

FAX: 054-247-6259 (代表)

大会ウェブサイト: <http://www.24annual.iadp.info/>

学会ウェブサイト: <http://www.iadp.info/>

会場・アクセス

大会 1 日目 (3 月 1 日)・2 日目 (3 月 2 日)

静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目 3 番 1 号

最寄り駅

JR 東海道線東静岡駅 (静岡駅から 1 駅)

南口より駅の案内に沿って徒歩約 3 分

大会 3 日目 (3 月 3 日)

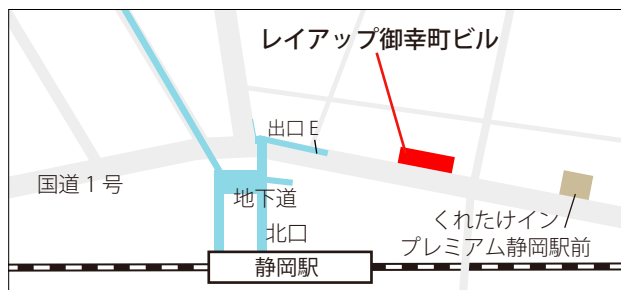
CSA 貸会議室 (レイアップ御幸町ビル)

〒420-0857 静岡市葵区御幸町 11-8 レイアップ御幸町ビル

最寄り駅

JR 東海道新幹線・東海道線 静岡駅

北口より徒歩 約 3 分 (北口地下道出口E が最寄り)



大会参加手続き

大会参加手続き

大会参加形式は、①全日程参加、②訓練ワークショップ（2019年3月2日 16:00-19:00）のみの参加、の2形式があります。

お申込み方法は、①大会ウェブサイトの申込みフォーム、②E-mail、③FAXの3つがあります。②、③の場合は、申込書をご記入の上、大会事務局（下記参照）までお送りください。申込書は、国際力動的心理療法学会 (IADP) ホームページからダウンロードできます。

国際力動的心理療法学会第24回年次大会ウェブサイト：<http://www.24annual.iadp.info/>

参加申込み締切り：2018年12月31日（月）

メールアドレス： office24@24annual.iadp.info

FAX： 054-247-6259（代表）

※ お申込み後、2週間ほどで大会事務局より受理通知をお送りいたします。お待ちいただいても受理通知が届かない場合は、お手数ですが大会事務局までご連絡ください。（メールでの連絡をご希望の方は、上記の専用メールアドレスを受信できるよう登録をお願いします。）

※ ③FAXでお申込みの場合、大会事務局からの連絡にお時間を頂く場合があります。ご了承ください。

※ 訓練ワークショップには定員が設定されているものがあります。ご希望のワークショップが定員となり次第、第2希望以降のワークショップとさせていただきます。お早めにお申込みください。

※ 参加形式②は2019年3月2日 16:00-19:00に開催される訓練ワークショップのみに参加が可能です。その他のプログラムに参加するためには大会参加形式①全日程参加でお申し込みください。

大会参加費

①全日程参加

	早期割引（～11月30日）	通常（12月1日～）
会員：	13,000円	14,000円
非会員：	16,000円	17,000円
学生（大学院生を含む）：	11,000円	12,000円
懇親会費：	4,000円	4,000円

②訓練ワークショップのみの参加

一律： 5,000円

宿泊について

静岡駅周辺のホテルのご案内

参考までに、会場に近い静岡駅周辺のホテルを下記にご案内させていただきます。

○くれたけインプレミアム静岡駅前 ○静鉄ホテルプレジオ駅北 ○スマイルホテル静岡 ○静岡タウンホテル

*なお、「くれたけインプレミアム静岡駅前」に関しては、先方のご厚意により通常よりも格安でご利用いただけます。

シングル…8,000円（税込・朝食付き）

ツイン…1部屋 10,000円（税込・朝食付き）

「くれたけプレミアム静岡駅前」の予約につきましてはのみ、大会事務局で受付をいたします。ご希望の方は、参加申込書の宿泊予約の欄にご記入ください。

締切は11月16日（金）とさせていただきます。なお、部屋数に限りがございます。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

市民公開プログラム「心の中に富士山を作ろう！」

昨今、日本では、スポーツの指導者と選手との人間関係が問題視されています。また親と子とのコミュニケーションの難しさもずっと言われています。

一方、自然界では災害も激しさを増しているように感じます。大地震が起き、火山が噴火し、また台風や豪雨による水害が毎年のように日本各地で起きています。そして、ここ静岡では、40年以上も前から、いわゆる“東海地震”の到来が予想され、学校や職場での防災訓練をはじめ、皆様のご家庭や地域でも、備えをされてきていらっしゃると思います。国、社会、地域、家庭の「安全」を確保・維持することは非常に大切なことです。

一方、心はどうでしょうか。“危機”への備えとして、日々どんなことができるでしょうか。もちろん、危機的な状況に直面した後の、心のケアはとても重要です。ただし、物事が起きてから対処するのではなく、起きる前から打てる手もきつとあるはず。 “危機”に対処するために我々にできる心の備えにはどのようなものがあるのでしょうか？

心の中に富士山を作りましょう！ここ静岡のどこからでも見える富士山のように、どっしりとした存在感を持ち、冬の雪が積ろうと、夏の灼熱の太陽にさらされようと、何万人という登山客が踏みしめようと、決して動じずにそこにいる富士山のような心を自分の中に作ってみましょう。つまり、自分の言いたいこと、意思やエネルギーをきちんと相手に伝えてみることです。また相手の意見をしっかりと受け止めることです。そうして、皆さんの隣にいる人、お父さん、お母さん、夫、妻、子ども、コーチ、上司、部下、先生・・・周囲の人たちとの、コミュニケーションを円滑に、かつ、強くしておくことが心の防波堤になります。なぜなら家族やチームの力が高まれば、いざという時に一人で全部抱え込まずに、家族やチーム全体がその受け皿になれるからです。お互いにサポートする力が大きくなれば、個々人が受ける心のダメージもより少なくて済むのです。

このプログラムでは、各界の専門家が集まり、家族やスポーツチームの機能を高めて、来るべき災害に対しての心の備えをするとともに、通常の生活においてもより豊かな生活が送れるためのヒントをいろいろにお伝えしたいと思います。「心の中に富士山を作る」。このプログラムへの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

市民公開プログラム①：2018/3/2 10:00-11:00

教育講演「しなやかにたくましくー PAS (パス) セルフケアセラピー」

講演：宇佐美 しおり（熊本大学大学院生命科学研究部 教授）
司会：石川 与志也（ルーテル学院大学 専任講師／PAS 心理教育研究所）

市民公開プログラム②：2018/3/2 12:00-14:30

第1部：実践&講義 12:00-13:20

後援：(有限会社) きのいい羊達

コーナー① 対象：小中学生

「身体と心を使って、自分のエネルギーを実感しよう！」

講師：

きのいい羊達（静岡のスポーツ指導プロ集団）スタッフ
武野 顕吾（ボールパークコーポレーション 代表）
雨宮 基博（上野原市立上野原小学校 教頭）
嶋田 一樹（静岡県立病院機構 静岡県立こども病院）

コーナー② 対象：親/専門家

「子育てワンポイント講座ー子育てって面白いー！」

講師：

中村 有希（PAS 心理教育研究所臨床ディレクター／東京医科大学 非常勤講師）
兼松 泉（磐田市立総合病院）
小谷 英文（IADP 理事長／PAS 心理教育研究所 理事長）

コーナー③ 対象：専門家

「医療/災害におけるパニック・うつ・PTSRを助けるセルフケア支援- 専門家としてのセルフケアセラピーの介入技法・研究」

講師：宇佐美 しおり（熊本大学大学院 生命科学研究部 教授）

第2部：座談会 13:40-14:30

テーマ「親や指導者と子どもを繋ぐもの、隔てるもの」

座長（話題提供）：

武野 顕吾（ボールパークコーポレーション 代表）

指定討論者：

中村 有希（PAS 心理教育研究所臨床ディレクター／東京医科大学 非常勤講師）
雨宮 基博（上野原市立上野原小学校 教頭）
加藤 由香（静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 がん化学療法認定看護師）

※ 小中学生は、きのいい羊達のプログラムに参加